

令和6年6月1日

山形市野草園だより



クリンソウ

山形市野草園

山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

野草園は



ポイント対象施設です



6～7月中旬の予定

◆開園期間・無休期間

- 開園期間 4/1(月)～11/30(土)
- 休園日 毎週月曜日(ただし 月曜日が祝日の場合は翌平日)
*6月は、6/17(月)、6/24(月)が休園日となります
- 無休期間 4/9(火)～6/16(日) *花がたくさん咲く時季に合わせ、無休で開園します

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与(1日1回まで)《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施 *春の無休期間と9月は土曜日にも実施します
- 時 間 ① 10:30～11:30 ② 13:30～14:30
- 内 容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内
- 費 用 無料(入園料300円は別途)

◆博物館実習生募集

- 募集期間 5/20(月)～6/28(金)
- 募集人数 先着4人
- 実施期間 令和6年9月3日(火)～9月8日(日)
*受講を希望する学生は野草園ホームページにて「山形市野草園 博物館実習生申込要項」
をご確認ください。 ホームページ <https://www.yasouen.jp>

◆R5年度写真コンテスト入賞作品展

- 日 時 6月7日(金)～7月11日(木) 午前9時～午後4時
- 場 所 自然学習センター内
- 内 容 R5年度写真コンテストの入賞作品を展示します。

◆寄せ植えギャザリング教室

- 日 時 6/1(土) 10:00～12:00
- 内 容 初夏の花苗を使って花束のような寄せ植えづくり
- 定 員 先着13名



◆薬草講座(第1回)

- 日 時 6/8(土) 10:00～12:00
- 内 容 園内を散策しながら生活に役立つ薬草について学習
- 定 員 先着15名 募集は終了しました

◆テラリウム教室

- 日 時 6/15(土) 10:00～11:00
- 内 容 ガラス容器にコケや植物を配置して制作
- 定 員 先着13名 募集は終了しました

◆きのこ植菌体験

- 日 時 6/23(日) 10:00~12:00
- 内 容 ナメコ・シイタケの植菌
- 申 込 先着20名 6/5(水)~ 野草園まで電話で
- 参加費 1,200円(入園料300円は別途)

◆四季観察会(第2回)

- 日 時 6/27(木) 9:30~11:30
- 内 容 シダ植物と見頃の植物
- 申 込 先着20名 6/5(水)~ 野草園まで電話で
- 参加費 200円(入園料300円は別途)

◆ホタル観察会

- 日 時 6月28日(金)、6月29日(土)、7月5日(金)、7月6日(土)
19:45~21:00
- 内 容 ゲンジボタルやヘイケボタルの観察
- 対 象 各日 20組(抽選)
- 申 込 6/1(土)~6/5(水)まで、野草園まで電話で
*当選者のみ、電話連絡します。
- 参加費 無料(入園料300円は別途)



ホタルの様子

◆庭木を楽しむための剪定技術教室(第2回)(第3回)

- 日 時 7/5(金)、7/6(土) 9:30~11:30
- 内 容 今年伸びた植込みの刈り込みによる樹形を整える方法を学習
- 申 込 両日 先着30人 6/20(木)~ 野草園まで電話で
- 参加費 資料代・入園料込500円(高校生以下200円)
- 持ち物 刈込みばさみ

◆カフェの営業・山野草販売(於 自然学習センター)

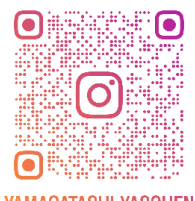
- カフェ やまぼうし
《営業》木曜・土曜・日曜 *6/22(土)は臨時休業となります
《メニュー》カレー(ブラック・グリーン)、ピザトースト、ハム野菜サンド、
バナナシェイク、コーヒー(アイス・ホット)
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・Instagram
をご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物
を検索できます。
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。



▲野草園観察日記▲



▲Instagram▲

●● 6～7月の風景(昨年度のアルバムより) ●●



寄せ植えギャザリング教室



薬草講座



テラリウム教室



きのこ植菌体験(今年 4 月実施)



四季観察会



庭木を楽しむための剪定技術教室

ここに行けば 会えるよ!



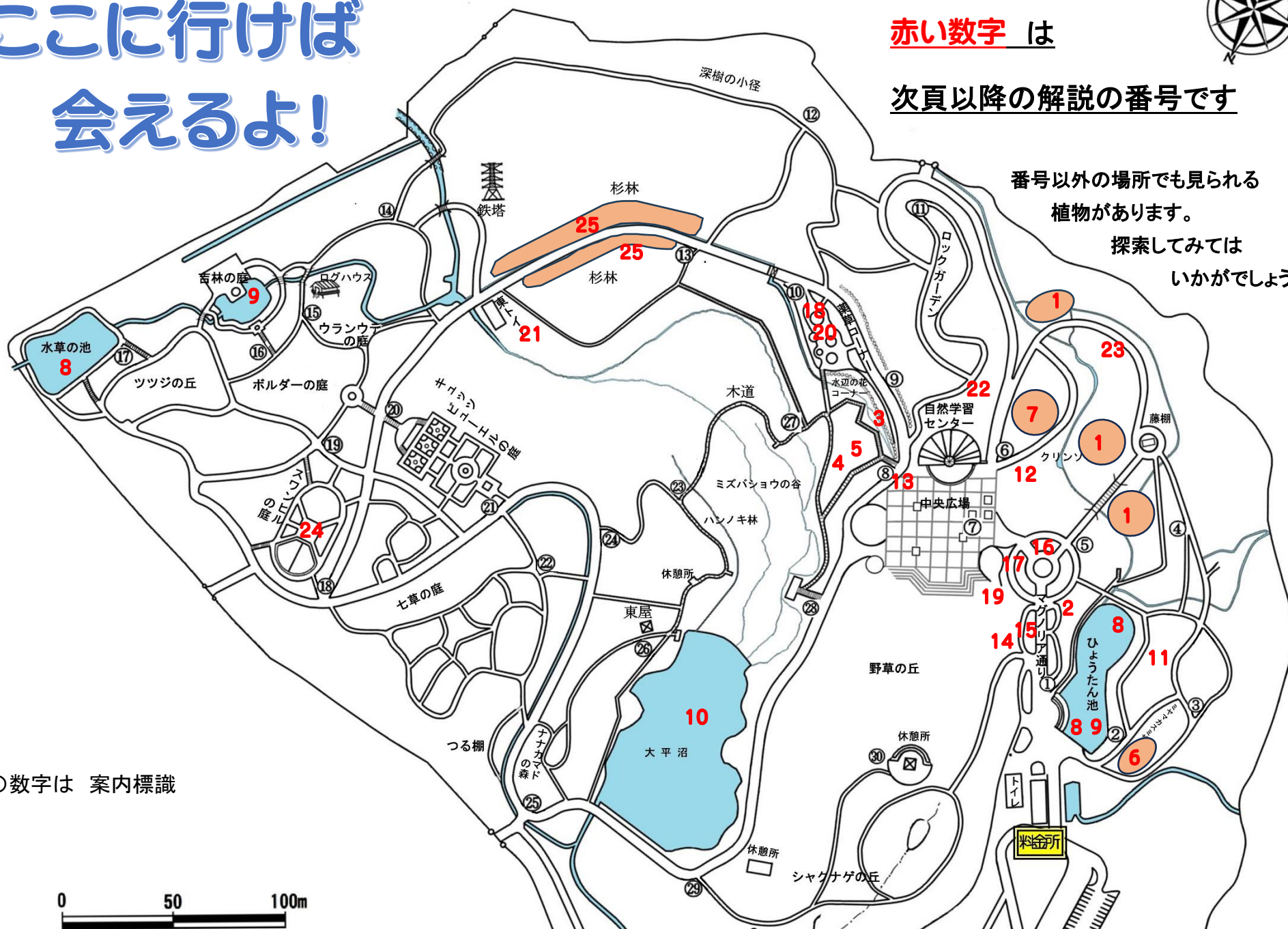
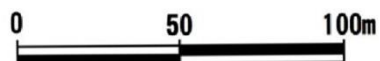
赤い数字 は

次頁以降の解説の番号です

番号以外の場所でも見られる
植物があります。

探索してみても
いかがでしょうか!

○数字は 案内標識



●● 6月に見られる主な花 ●●

場 所 は見られる主な場所



1 クリンソウ (サクラソウ科) クリンソウの谷

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いです。クリンソウ（九輪草）は、寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾（九輪）に例えて名づけられました。



2 ヒメシャガ (アヤメ科) マグノリア通り

山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、根茎が横に這って増えていきます。花がシャガに比べてやや小型なので、《ヒメ》がつきました。径4cm程の淡紫色の花を2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり《とさか状》の突起があります。



3 カキツバタ (アヤメ科) 水辺の花コーナー

湿地に生育する多年草です。ヒオウギアヤメやノハナショウブに先がけて咲きます。葉の幅が広く中肋（中央に通る太い葉脈）はありません。花茎の先に青紫色の花をつけ、花弁の中央基部には白色の斑紋があります。花は衣服を染めるのに利用されたため、名前の由来は「書付花（搔付花）」がなまったものといわれています。



4 ヒオウギアヤメ (アヤメ科) ミズバショウの谷

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。3枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片3枚は小さく目立たず、上に立ち上がりません。葉が桧扇（ヒオウギ）に、花がアヤメに似ていることが名前の由来です。



5 ノハナショウブ (アヤメ科) ミズバショウの谷

水湿地に生える多年草です。名前の由来は、野生のノハナショウブという意味（野花菖蒲）で、全てのノハナショウブの原種になっています。葉の幅が狭く、葉の中央にある葉脈が太くはっきりして筋になっていることや、外花被片の線が黄色いことでカキツバタと区別することができます。



6 ヒメサユリ（ユリ科）ひょうたん池北西側

新潟県と東北地方南西部の高山に生える多年生草本です。ササユリに似ていますが、草丈が少し低くて、雄しべが外に出ないという違いがあります。漏斗状鐘形でピンク色の花を茎の先に1～2個つけます。名前の由来はササユリに似ていて小形であるからですです。別名オトメユリは、可憐さを表しています。



7 ゼンテイカ《ニッコウキスゲ》（ワスレグサ科）

学習センター西側

本州の中部地方以北の山地に生える多年草で、草原に群生することがよくあります。花茎の先に黄色い花を3～4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、漏斗状の鐘形です。若葉や花のつぼみはおいしらしく、シカなどの動物も食べるようです。



8 オゼコウホネ（スイレン科）ひょうたん池

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。雌しべの柱頭盤が赤いです。コウホネは黄色です。



9 スイレン（スイレン科）吉林の庭

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名前は、「朝に花が開いて夜に閉じる」睡る蓮ということに由来します。



10 ヒツジグサ（スイレン科）大平沼

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は末草（ヒツジグサ）で、未の刻（午後2時）頃に開くことに由来します。そして、夕方には閉じてしまいます。



11 シライツソウ（シュロソウ科）

ひょうたん池西側

春から夏に、細長い花茎を直立させ、高さは15～50 cm 程になります。花茎の先に総状花序をだし、糸屑を束ねたような白花を多数つけ、下から順に咲き上がっていきます。花被片は6個あり先が太い線形で、上方の4個は長く、下方の2個はごく短い特徴があります。



12 ホオノキ（モクレン科）学習センター西側

落葉高木で、高さは30m 以上になるものもあります。葉は長さ20～40 cm にもなり、倒卵状楕円形で全縁です。そして裏面は白い粉を帯びています。また、葉は互生しますが、枝先に束生し輪生状に見えます。大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。花弁がらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



13 ヤマボウシ（ミズキ科）中央広場

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、花や葉はハナミズキに似ています。花弁のように見えるのは苞で、その中心にある淡黄緑色の小花が20～30個密集した丸いものが花序です。秋には果実が赤く熟します。丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をその頭巾に見立てたことが名前の由来です。



14 チョウジソウ（キョウチクトウ科）

マグノリア通り

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。横から見ると花の形が丁の字に似ているということが名前の由来です。



15 エゴノキ（エゴノキ科）マグノリア通り

雑木林などに生えている落葉小高木です。今年伸びた小枝の先端に白い花を下向きに数個ずつ付けます。花は5裂した白い花弁で、雄しべの黄色い葯が目立ちます。枝は花でいっぱいです。花後にできる果実は毒性があります。果実が“えぐい”（あくが強いがらっぽい）味がする木ということが名前の由来です。



16 サラサドウダン (ツツジ科) マグノリア通り

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布しています。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。更紗のような模様が名前の由来になっています。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならず先が広がり鐘形になるところが違います。



17 ベニサラサドウダン (ツツジ科) マグノリア通り

中部地方北部から東北地方南部まで分布する落葉低木です。花は鐘形で、下向きに咲き、紅色の花には濃紅色の縦の筋が入ります。サラサドウダンに比べ、花はやや小さく、色は濃いです。同じ仲間のベニドウダンは、さらに花は小粒で、色は濃くなります。



18 オオナルコユリ (クサスギカズラ科)

薬草コーナー

北海道から九州に分布する多年草で比較的明るい落葉林の下などに生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎の高さが1 m程、葉の長さは30cmにも達し弓状に曲がります。細い花柄の先に、6枚の花被片が合着した筒状の花を2～4個つけ、数組が垂れ下がります。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てたことが名前の由来です。



19 アカバナシモツケ (バラ科) マグノリア通り

茎の先に、小さな紅色の花をたくさんつける多年草です。ひとつひとつの小花からは、多くの雄しべが長く伸びて、全体的にふわっとした感じに見えます。葉は5つから7つに深く裂け、また、鋸歯があるので、モミジの葉のような印象です。接写で撮影することがおすすめです。



20 ホタルブクロ (キキョウ科) 薬草コーナー

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの沢山の方言での呼び名があります。茎の上に大きな鐘形の花をつけますが、袋状の花の中にホタルを入れて遊んだことが名前の由来といわれています。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは“ヤマホタルブクロ”です。



21 ウリノキ（ミズキ科）東トイレ北側

葉の形がウリの葉に似ていることが名前の由来といわれています。美しい白い花弁は外側に巻き込み、その真ん中の黄色い雄しべと白い雌しべが綺麗です。花後、果実は藍色に熟します。花と果実、両方の美しさを楽しむことのできるウリノキです。



22 ウツボグサ（シソ科）ロックガーデン登り口

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。うつぼ（靱）とは、その昔、武士が矢を入れて背負った武具のことです。この植物の花穂がそれに似ていることが名前の由来です。夏の盛りには枯れてしまい、茶色くかさかさの状態になります。そんな様子から、“夏枯草（かこそう）”とも呼ばれています。枯れた姿も印象的です。



23 ヤナギラン（アカバナ科）クリンソウの谷

花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることが名前の由来です。山地の日当たりのよいところに生える多年草で、山野が工事跡などで荒れると進出し木が茂ると姿を消す先駆植物です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、下から上へ咲き上がります。夏の終わり頃には、白い綿毛を穂全体からいっぱいに出し、その様子もまた見事です。



24 スモークツリー（ウルシ科）スワンヒルの庭

初夏に花を咲かせる雌雄異株の落葉樹木で、ヨーロッパから中国に分布します。小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせますが、雌株の花後にタネを結ばない花（不稔花）の軸の部分が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見た目がもふもふした感じになり、離れてみると煙のように見えます。



25 エゾアジサイ（アジサイ科）アジサイロード

北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生える日本固有種です。両生花の周りの装飾花の色合いが、コバルトブルーでとても美しく見えます。葉の縁に粗い鋸歯があります。ガクアジサイと似ていますが、葉に光沢がなく薄手です。見て、触って確認してみましょう。